

年度 2007 学期 前期	曜日・校時 火 2	必修選択 選択	単位数 2
授業科目/(英語名)	経済と経営 (経済学入門) Economics and Business (Introduction to Economics)		
対象年次 1・2年次	講義形態 講義	教室	
対象学生(クラス等) 全学部	科目分類 人文・社会科学科目		
担当教員(科目責任者) / Eメールアドレス/研究室/TEL/オフィスマワー 担当教員: 工藤 健 / Eメールアドレス: tkudo@nagasaki-u.ac.jp / 研究室: 経済学部本館 521 /オフィスマワー: 木・金曜日 12:00-13:00(研究室), Eメール(上記アドレス), または授業終了後に教室で受け付ける			
担当教員(オムニバス科目等)			
授業のねらい/授業方法(学習指導法)/授業到達目標 授業のねらい: 将来, 社会人として生活する際に, 日常的にメディアを通じて伝えられる経済政策の意思決定の背景にある論理(ロジック)を理解できるようにするために, 世界的に標準となっている入門テキストを用いて, マクロ経済学の基礎的な考え方を身につける。 授業方法: 指定のテキストに沿って, 理論的な事項を中心に講義形式で伝達される。授業で触れない事項や, 応用的・制度的な事項は, 必要に応じて授業中に配布される補足資料を利用した自習や, 原則的に毎回提出を要求される宿題を通じて補われる。 授業到達目標: 簡単なマクロ経済学の理論モデルを操作できる。政府が実施する金融・財政政策が経済におよぼす影響について, マクロ経済学のロジックに基づいて推測できる。マクロ経済政策に関わる日本と米国の制度を比較して説明できる。			
授業内容(概要) / 授業内容(毎週毎の授業内容を含む) 授業内容(概要) ・マクロ経済学とミクロ経済学に共通する考え方や, 経済の様子を知るための主要な指標を紹介する(第1回~第6回)。 ・マクロ経済モデルにおける長期均衡の性質と, 長期における金融・財政政策の影響について解説する(第7回~第10回)。 ・短期における景気変動が経済におよぼす影響と, 金融・財政政策の効果について解説する(第11回~第14回)。 第1回 講義ガイダンス 授業の進め方, 成績評価方法の説明 第2回 経済学の思考法とマクロ経済学 (テキスト第1章) 第3回 価格システム (テキスト第2章) 第4回 労働市場と資本市場 (テキスト第3章) 第5回 経済活動の計測 (テキスト第4章) 第6回 生計費とインフレーション (テキスト第5章) 第7回 完全雇用モデル (テキスト第6章) 第8回 完全雇用下の財政 (テキスト第7章) 第9回 経済成長 (テキスト第9章) 第10回 貨幣, 物価水準, 中央銀行 (テキスト第10章) 第11回 景気循環論入門 (テキスト第11章) 第12回 総需要とインフレーション (テキスト第13章) 第13回 中央銀行と市場金利 (テキスト第14章) 第14回 マクロ経済政策の役割 (テキスト第15章) 第15回 定期試験(定期試験期間中に実施) (毎週の内容は, 授業の進行度合に応じて変更される可能性がある)			
キーワード	経済学入門, マクロ経済学, 財政政策, 金融政策		
教科書・教材・参考書	テキスト: (履修希望者は必ず購入すること) J.E.Stiglitz and C.E.Walsh, <u>Principles of Macroeconomics 4th ed.</u> , W.W.Norton & Co., 2006年 参考書: (本講義では取り扱わないミクロ経済学についても自習を希望する学生に向けて) J.E.Stiglitz and C.E.Walsh, <u>Economics 4th ed.</u> , W.W.Norton & Co., 2006年		
成績評価の方法・基準等	定期試験(定期試験期間中に実施)60%, 宿題(合計13回)40% ・定期試験の範囲には, 授業中の講義内容を中心に, 配布資料や宿題の内容の一部も含まれる。 ・提出された宿題は毎回, 3段階で評価され, 最も良い評価から順に3点, 2点, 1点が与えられる。 ・宿題を13回中10回以上提出した受講者には, ボーナス点として1点が加えられる。		
受講要件(履修条件)			
本科目の位置づけ / 学習・教育目標			
備考(準備学習等)	事前の準備なしに受講しても, 講義内容を理解できないことが予想されるので, 予習として, テキストの指定範囲を, 毎回の授業の前に必ず読んでおくこと。		